

千葉市の買い物弱者救済

食品スーパーの穴倉(千葉県大多喜町)は6月、移動スーパーの営業エリアを千葉市に拡大する。これまで県南部の過疎地域を中心に移動販売車を展開してきた。都市部の千葉市内でも高齢化により買い物に支障がある「買い物弱者」が増加していることを踏まえ、今後は市街地近郊の住宅街での需要を取り込む。



停車スペースが狭い住宅街を回るため軽トラックを使う(千葉市)

穴倉、移動スーパー区域拡大

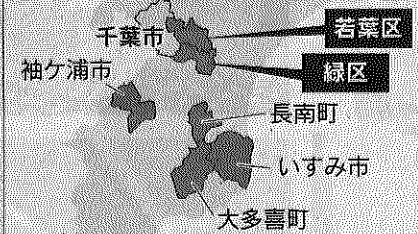
市街地近郊の高齢化に対応

千葉市内では主に、若葉区や緑区の高齢者が多め、本格的に営業を始める。1日で60人程度の利用者で約8万円の売り上げを目標にする。

移動スーパーは平日の朝から夕方にかけて、曜日別の住宅街に設定することになり、6月中旬をメドに移す。

都市部に近い住宅街でも買い物弱者が増えている

■穴倉が移動スーパーを展開している地域



訪日ムスリム消費分析

つづすな SNS書き込みから

観光コンサルティング「商品調べ、需要予測なら、イスラム教国のイン

報を集める。自治体や企業からの依頼を受けてから少なくとも3カ月間、指定された地域の観光地や店舗に関する投稿を集める。その

た公園など約20カ所の場所を回って販売する。事前に申し込みがあった個人宅にも配達する。商品はフードランドレオ音田店から調達。肉や野菜などの生鮮食品に加え、日用品など計300種類を販売する。

千葉市の事業は同社が中心となって2015年に設立したNPO法人「地域支援ネットワーク」(同町)が担う。穴倉は現在、NPOや子会社を通じて、いすみ市、袖ヶ浦市、長南町、大多喜町の4市町で移動スーパーを営業している。

千葉市では需要調査のため、5月中旬から試験運行を始めた。NPOの担当者によると、市街地に近い千葉市の住民は山間部の住民に比べて車を

水道の歴史巡る旅

東京都は今夏、はとバス(東京・大田)と組み、都内の水道施設を見学するバスツアーを行う。江戸時代に開削された水路「玉川上水」や、水道関連の展示施設などを巡り、水道の歴史などを学べる。2018年に東京で開かれる国際水協

都、はとバスと

会(IWA)世界会議に向け、東京の水道を国内外に

地域情報ヘッドライン

日経電子版紙面ビューアーから

- 北海道** 訪日外国人向け外食店、農業に参入
- 東北** ユアテックがベトナム事業を拡大
- 長野** 県内自治体がU・Iターン策を強化
- 静岡** 清水港のコンテナ船就航数、過去最多
- 四国** 阿波おどり会館、外国語字幕で解説
- 九州** 観光推進機構、PR機能を一元化

▶朝刊・夕刊→地域経済(有料会員向け)

玉川上水や「水の科学館」

参加料金は大人、子どもともに2500円。料金の一部を都が負担するため、通常よりも格安になっているという。ツアーの定員は各回40人で計400人で、このほど参加者の募集を始めた。英語ガイドによる外国人向けツアーは6月1日から募集する。外国人向けをのぞく定員360人に対し、30日前までに約260人の申し込みがあったと

後も増加する見通し。ここ在化してきている。同社